

研究課題名 閉塞性黄疸を伴う胆道癌に対する術前 ENBD 留置の忍容性に関する検討 に関する情報公開

1. 研究の対象

2013年1月1日～2017年9月30日に当院で閉塞性黄疸に対してENBDを留置され、肝門部領域胆管癌の診断で手術を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

閉塞性黄疸を伴う肝門部領域胆管癌では術前にENBDを留置し、減黄が得られたのちに手術を行う。一定の待機期間が生じ、この間に患者様がENBDを自己で管理できるよう手技を習得してもらっている。他の多くの施設では入院を継続し、医師や看護師が管理を行っているのが現状である。

本研究はENBDが留置された患者の外来通院期間中に発生する合併症を検討し、安全に自己管理が可能であることを検証することが目的である。

当該患者180症例を後方視的に検討する。診療録から患者情報を拾い上げ、ENBDに関連する事故の発生頻度やその危険因子などを検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 病歴、ENBD留置時の所見、胆汁排液量、ENBD留置後の外来受診歴 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学 柳野 正人